



たかむく 2023

明章小学校
学校だより第21号
令和5年12月22日

明日から冬休み

明日から、子供たちがとても楽しみにしている冬休みに入ります。今年の冬休みは17日間です。冬休みにはクリスマスにお正月と子供たちが楽しみにしているイベントが待っています。病気やケガをすることなく、元気にすごしてほしいと思います。大みそかや正月3が日の生活リズムがいつもと違ってくるのもしかたがありませんが、それ以外の日は早寝早起きを心がけ、規則正しい生活を送りましょう。



新年を迎える

日本では、昔から「お正月」を祝ってきました。お正月は1年間の幸せをもたらすためにやってくる「年神様（としがみさま）」を家族みんなで迎えする行事です。年神様は健康をもたらし、子孫繁栄や五穀豊穡を授けてくれる神様だと言われています。お正月は日本においてもっとも古い行事とされていますが、農耕の神様とご先祖様への信仰が合わさって、「家」を守る神様が誕生したと考えられているそうです。古くからの行事や習慣、しきたりが今でも行われていますが、それはすべて「年神様」を意識したものです。

お正月になると家に飾る物も、すべて年神様を迎えるために飾ります。門松は松を目印に年神様がやって来ることから飾ります。玄関のしめ飾りは、神社の鳥居にあるしめ縄と同じ働きで、それが飾られたところは年神様がいる神聖な場所であることを示します。

子供たちが楽しみにしている「お年玉」は昔はお餅でした。お餅は年神様への供え物で、「年玉（年魂）」と言われていたそうです。お正月が終わると、その供え物を年神様からの贈り物として子供たちに分けてあげていました。江戸時代の後半ごろにお餅からおもちなどに代わり、お金に代わったのは昭和30年代とされています。

また、昔の人は年令を「数え」で数えていました。生まれたときが1歳で、新しい年になると歳をひとつずつ増やしていく数え方です。今は、それぞれが生まれた日を誕生日としてお祝いしますが、新しい1年が来たときに家族まとめて年を加え、みんなでお祝いをするという意味もお正月にはあったそうです。昔は幼い頃に命を落とす子供も多かったですから、1年間を無事に過ごし、家族全員がそろってお正月を迎えられることはとても喜ばしいことだったのでしょう。そんな危険がなくなった今でも、1年を安全で健康に過ごすことへの感謝と祈りは、忘れてはならないものだと思います。そんな気持ちを胸に家族そろって楽しいお正月をおすごしください。保護者の皆様には本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお祈りいたします。



来年も